

令和 4 年食中毒発生状況の概要について

令和 5 年 7 月 4 日
厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課

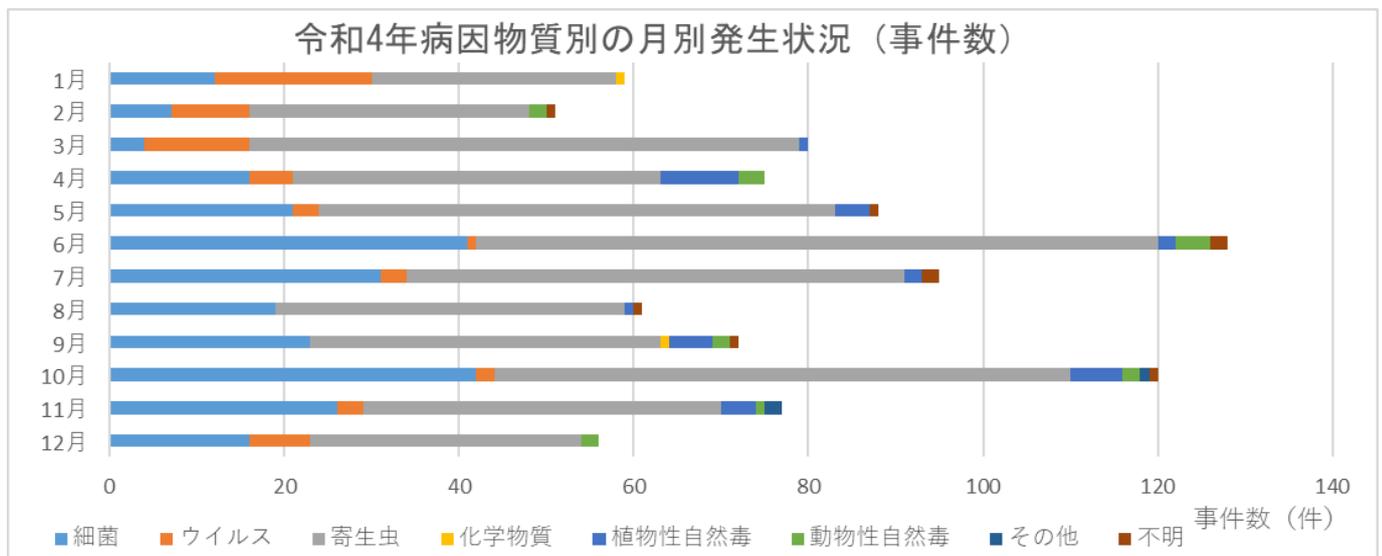
1. 発生状況（事件数, 患者数, 死者数）

- 令和 4 年に国内で発生した食中毒事件数は 962 件（対前年+245 件）、患者数 6,856 人（対前年-4,224 人）、死者数 5 人（対前年+3 人）であった。
- そのうち、患者数 2 人以上事例は、368 件（対前年+28 件）、患者数 6,262 人（対前年-4,441 人）であり、全体の事件数の 38.3%、全体の患者数の 91.3%を占めていた。
- 患者 500 人以上の食中毒は 0 件（対前年-2 件）であった。

2. 月別発生状況

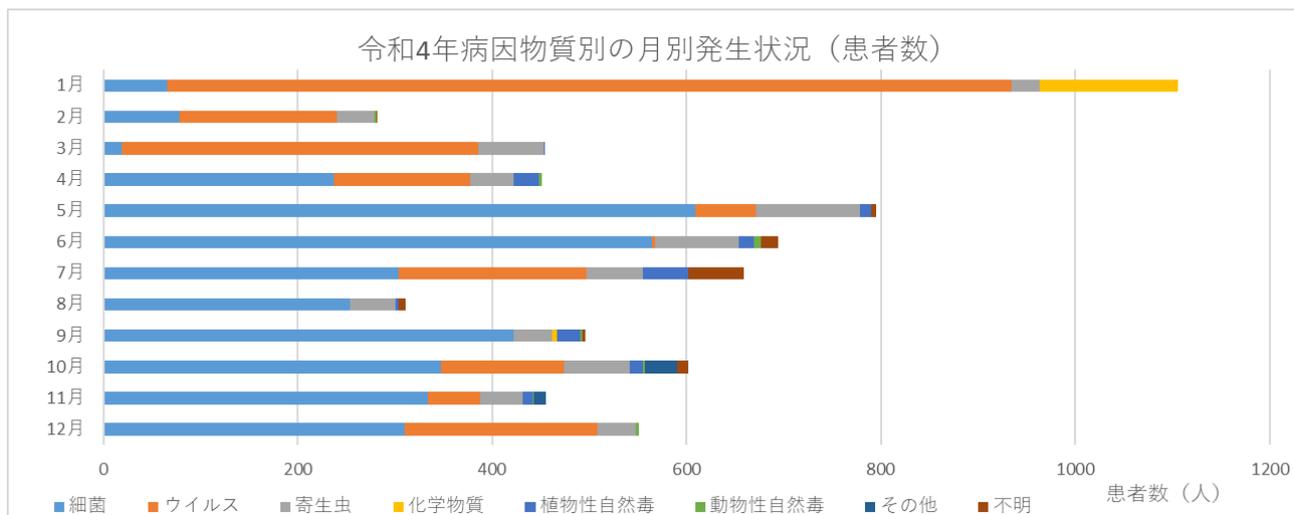
食中毒事件の発生が最も多かった月は、6月の 128 件（13.3%）で、次いで 10月の 120 件（12.5%）、7月の 95 件（9.9%）の順であった。患者数では、1月の 1,106 人（16.1%）、5月の 795（11.6%）、6月の 694 人（10.1%）の順で多かった。

図 1：令和 4 年月別発生状況（事件数）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	12	7	4	16	21	41	31	19	23	42	26	16
ウイルス	18	9	12	5	3	1	3	0	0	2	3	7
寄生虫	28	32	63	42	59	78	57	40	40	66	41	31
化学物質	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
植物性自然毒	0	0	1	9	4	2	2	1	5	6	4	0
動物性自然毒	0	2	0	3	0	4	0	0	2	2	1	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
不明	0	1	0	0	1	2	2	1	1	1	0	0
合計	59	51	80	75	88	128	95	61	72	120	77	56

図 2：令和 4 年月別発生状況（患者数）

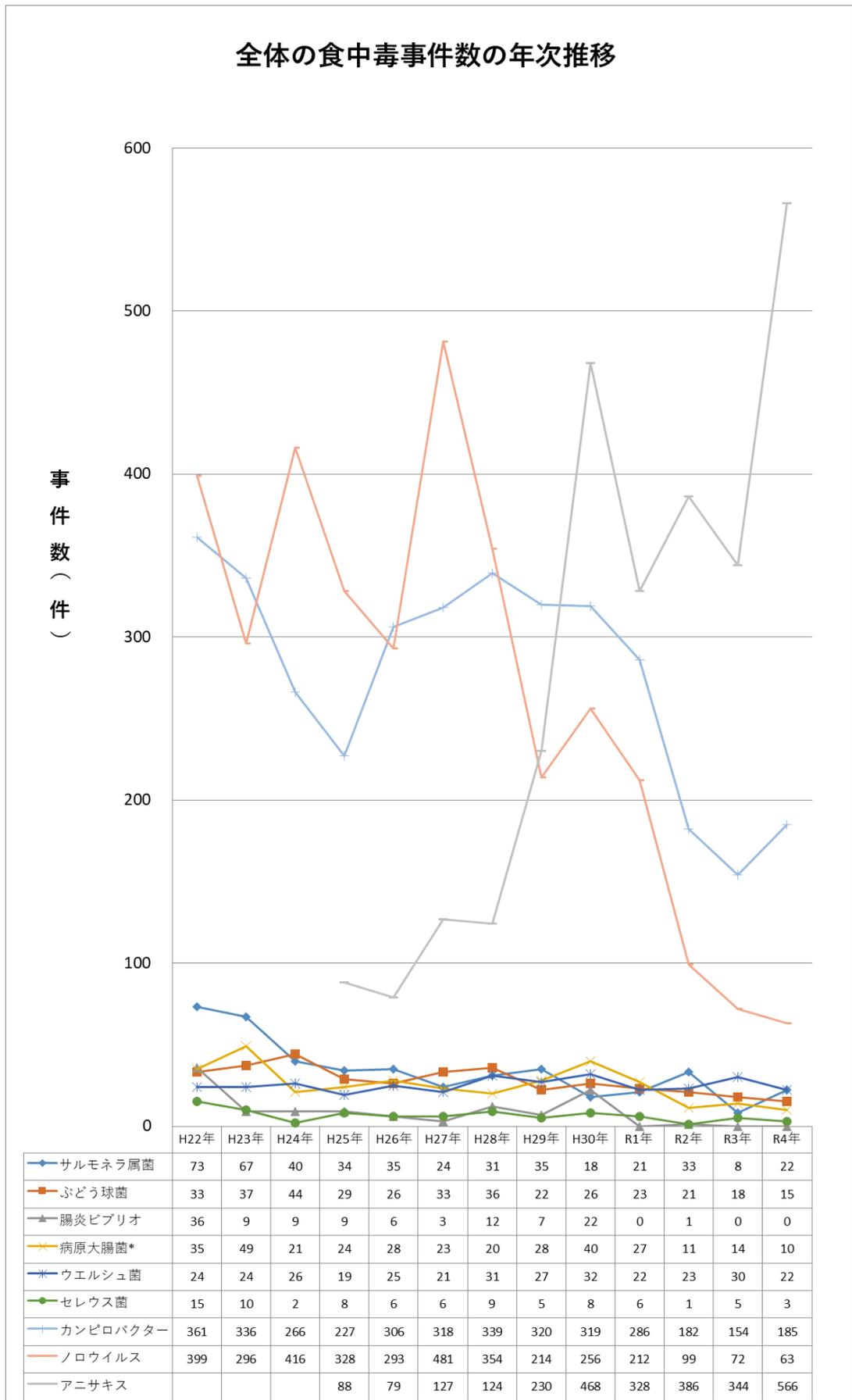


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	66	78	19	237	609	565	304	254	422	347	334	310
ウイルス	868	162	367	140	63	3	193	0	0	127	54	198
寄生虫	29	39	67	45	106	86	58	47	40	68	44	40
化学物質	143	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
植物性自然毒	0	0	1	26	12	15	47	3	24	13	10	0
動物性自然毒	0	2	0	3	0	8	0	0	2	2	1	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	12	0
不明	0	1	0	0	5	17	57	7	3	12	0	0
合計	1106	282	454	451	795	694	659	311	496	602	455	551

3. 病因物質別発生状況

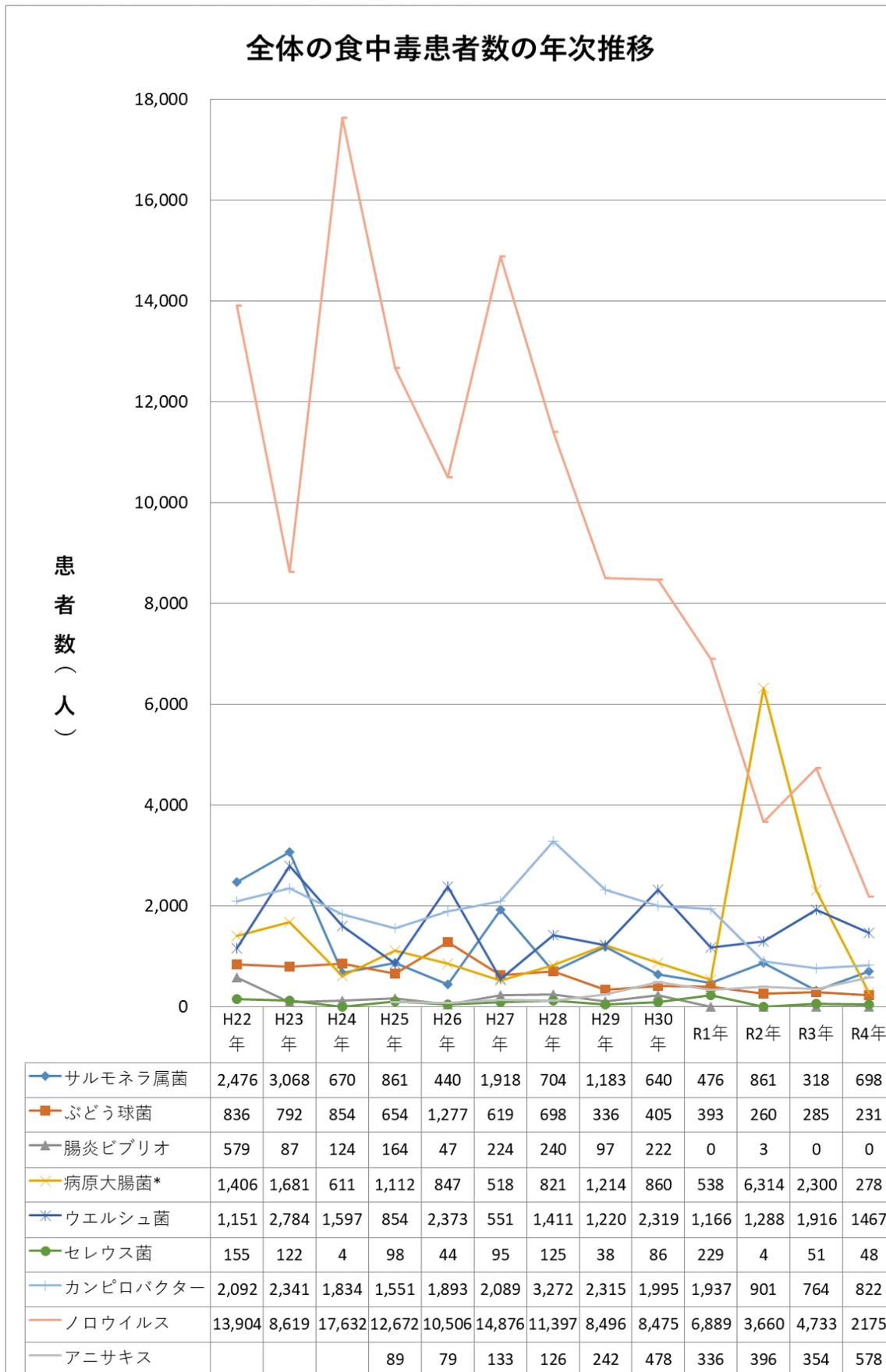
- 病因物質別の事件数を見ると、アニサキス（566 件、58.8%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（185 件、19.2%）、ノロウイルス（63 件、6.5%）の順が多かった。また、病因物質別の患者数は、ノロウイルス（2,175 人、31.7%）、ウエルシュ菌（1,467 人、21.4%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（822 人、12.0%）の順が多かった（図 3, 4）。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例の病因物質別の事件数を見ると、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（174 件、47.3%）、ノロウイルス（63 件、17.1%）、植物性自然毒（23 件、6.3%）の順が多かった。また、患者数 2 人以上の事例の病因物質別の患者数は、ノロウイルス（2,175 人、34.7%）、ウエルシュ菌（1,467 人、23.4%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（811 人、13.0%）の順が多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数 8 件（0.8%）、患者数 78 人（1.1%）、死者 1 人であった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、ノロウイルスとカンピロバクターの事件数が高い値で推移している。
- 寄生虫（クドア、サルコシスティス、アニサキス、その他の寄生虫）については平成 25 年 1 月から食中毒事件票に病因物質種別として追加されている。令和 4 年の発生状況は、クドアが 11 件 91 人、アニサキスが 566 件 578 人、サルコシスティスのが 0 件となっている。

図3：平成22～令和4年食中毒事件数推移



<※腸管出血性大腸菌を含む。>

図4：平成22～令和4年食中毒患者数推移



<※腸管出血性大腸菌を含む。>

4. 原因食品・施設別発生状況

- 原因食品・食事の判明したものは、事件数 715 件(74.3%)、患者数 6,532 人(95.3%)であった。
- 原因食品別の事件数を見ると、魚介類(384 件、39.9%)、複合調理食品(50 件、5.2%)、野菜及びその加工品(35 件、3.6%)の順で多かった(「その他」を除く。以下この項において同じ。)。また、原因食品別の患者数は、複合調理食品(2,060 人、30.0%)、魚介類(745 人、10.9%)、肉類及びその加工品(227 人、3.3%)の順で多かった。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例における原因食品別の事件数を見ると、複合調理食品(49 件、13.3%)、肉類及びその加工品(29 件、7.9%)、魚介類(29 件、7.9%)の順で多かった。また、患者数 2 人以上事例における原因食品別の患者数は、複合調理食品(2,059 人、32.9%)、魚介類(390 人、6.2%)、肉類及びその加工品(227 人、3.6%)の順で多かった。
- 原因施設の判明したものは、事件数 673 件(70.0%)、患者数 6,487 人(94.6%)であった。
- 原因施設別の事件数を見ると、飲食店(380 件、39.5%)、家庭(130 件、13.5%)、販売店(87 件、9.0%)の順で多かった。また、原因施設別の患者数は、飲食店(3,106 人、45.3%)、仕出屋(1,323 人、19.3%)、事業場(949 人、13.8%)の順で多かった。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例における原因施設別の事件数を見ると、飲食店(234 件、63.6%)、家庭(28 件、7.6%)、事業場(24 件、6.5%)の順で多かった。また患者数 2 人以上の事例における原因施設別の患者数を見ると、飲食店(2,960 人、47.3%)、仕出屋(1,323 人、21.1%)、事業場(948 人、15.1%)の順で多かった。

5. その他

令和 4 年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省医薬・生活衛生局ホームページ「食中毒に関する情報」

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html) で公開している。